

一 劍（相原泥舟）

霜刀三尺映花紅 手鍊技成心膽雄
一擊揮來破邪劍 電光閃處斷妖風

氷刀 三尺 花に 映じて 紅なり

解説 劍の捌きを表現した詩。

手鍊の 技 成つて 心胆 雄なり

語釈 ※氷刀Ⅱ氷のような刀。鋭利な刀。※手鍊Ⅱ熟練した手際。

一撃 揮い 来る 破邪の 劍

よく慣れて上手な手並み。※心胆Ⅱこころ。きもったま。※一撃Ⅱ一回の打撃または攻撃を加えること。ひとうち。※揮Ⅱ手に持つて振り動かす。※破邪Ⅱ仏語。邪義・邪道を破ること。※電光Ⅱ動作が、きわめて速いこと。すばやいこと。早業。※妖風Ⅱ怪しい気配のする風。

電光 閃めく 処 妖風を 断つ

通釈 鋭利な刀に花が映り紅に輝いている。この刀により、日頃磨いている技により心は雄々しい。邪道を打ち破る劍は電光石火の一撃で怪しい気配の満ちた風をも断ち斬るのである。